令和７年４月

大島っ子のきまり

尼崎市立大島小学校

みんなが楽しく安全に過ごすために「大島っ子のきまり」をしっかり守って、みんなが楽しく気持ちよく過ごせるようにしましょう。

◎は令和６年度の児童会役員の人が大切にしていきたいと話してくれた内容です。

学校の行き帰りのきまり

◎先生や友だち、出会った人みんなに元気よくあいさつをします。
○横断歩道で止まってくれた自転車や車に感謝の気持ちを伝えましょう。
○学校へは８時～８時20分までに着くようにします。
（南門開門時刻は８時）
○登下校は、すべて南門からです。
（運動場を横切らずに必ずアスファルト部分を歩く。）
○決められた通学路を守って、安全に登下校します。
○授業終了後は、速やかに下校します。
○最終下校時刻は４時です。
○一人きりにならないよう、できるだけ友だちといっしょに登下校します。
◎登校してからは、勝手に学校の外へ出ません。
◎下校してから、学校に忘れ物などを取りに来ません。

学校内でのきまり

○学校にお金やおもちゃ、シャープペンシル、携帯・スマートフォン、お菓子、ジュースなど学習に不必要なものを持ってきません。
○学校内では名札を必ずつけます。
○先生の指示やチャイムの合図を守ります。
○20分休みや昼休みには外に出て、決められた場所でなかよく遊びます。
○西校舎へは用事があるときだけ行きます。
◎２０分休み・昼休みの遊び方で決められたルールを守ります。
◎雨の日は、教室で工夫して遊びます。（廊下や階段では遊びません。）
○バットを使う、ボールを蹴る等の遊びはしません。
○廊下・階段は走らないで静かに右側を歩きます。
○特別教室・体育館・給食室などへは、並んで静かに行き帰りをします。

○くつやトイレのスリッパを必ずそろえます。
○学校を美しくします。（協力して、ていねいにそうじをします。）
◎活動しやすい髪型で過ごします。
（髪が肩にかかる長さの人は体育等の学習時に結びます。）
○マニキュア、ピアスなどをつけません。
（異物混入防止のため、透明ピアスなど不要なものは身に付けません。）

放課後の遊び方のきまり

○公園では近隣に住んでいる人に迷惑をかけず、ルールを守って遊びましょう。
○公共の道路で、Ｊボード、ローラーボード、一輪車などはしません。
○エアガン、BB弾等の銃、その他の危険な玩具で遊びません。
○財布やかばん等の持ち物を自転車かごに入れっ放しにして遊びません。
○武庫川やその他の用水路などの水辺に子どもだけで行きません。水に入って遊びません。
○校区外へは、子どもたちだけで遊びに行きません。
（地域の見守りがある校区内で遊びましょう。）
○暗くなる前に自宅に着くようにします。（各家庭の門限よりも早く帰る）

学習のきまり

授業前後のきまり

○次の授業の準備（教科書・ノート・下敷き）をしてから休憩する。
○忘れ物をした時は、授業の前に担当の先生に伝える。
○チャイムが鳴り終わるまでに、座席に座る。
○鉛筆は休み時間に、けずっておく。（授業中はけずらない。）

授業中のきまり

○授業中はいすをひき、正しい姿勢で座る。
○名前を呼ばれたら「はい」と聞こえる声で返事をする。
○話している人の方を向き、だまって最後まで聞く。
○発言するときは　ていねいな言葉づかいで、聞こえる声で話す。
○字を書くときは、下じきを使う。

学習用具のきまり

○筆箱は１～３年生は箱型を使う。４年生以降も大切に使いましょう。
ストラップやキーホルダーなどはつけない。（缶でできた筆箱は使わない。）
○筆箱の中身は　鉛筆５～６本（キャップ）　よく消える消しゴム１つ
赤鉛筆か赤ボールペン　ものさし　ネームペン
使うもの以外は入れない。赤ボールペンは４年生から使っても構いません。
学習のさまたげになるものは使いません。

タブレットのルール

使い方について

○学習のために使いましょう。
（アプリやゲームなどは入れません）
○プログラミング（スクラッチ等）でゲームはしません。自分で作りましょう。
○先生の指示があるときに使いましょう。
○使わないときはケースに入れておきましょう。
○パスワードや設定を勝手に編集しません。また、他の人にパスワードは教えません。
○画面の設定は変えません。
○休み時間は、雨の日などの運動場が使えないときに使いましょう。
○無くしたり、壊したりしないように大切に扱いましょう。
○タブレットは必ずケースに入れて持ち帰りましょう。

情報モラルについて

○相手を傷つけること、嫌な思いをさせることは絶対にやめましょう。
○自分以外の写真や動画をカメラで撮るときは必ず相手の許可を取りましょう。

お家での使い方について

○お家でも使い方は学校と同じです。学習のために使いましょう。
○充電器は家で管理して、電池が少ない場合は家で充電してきましょう。